

目次

はしがき

I—インドへの旅 11

インドへの旅 13

断片的モニタージュ インド体験型のアジア主義 光と
エロス 音と血と ご来迎幻想 入浴と火葬

映画と踊りとタントラ・アート 60

「近代」後遺症 単純明解なインド映画 雲助タクシー
の正当性 タントラ・アートの世界 哲学・宗教・芸術
の結集、インド舞踊

II—インドと日本人 89

インドと日本人 91

フィルターの向こうのインド 天空・印度 アジアは一

つ——岡倉天心 双頭の鷲——大川周明 撃鼓唱題——
藤井日達 鏡としてのインド

人間・藤井日達 109

藤井上人の涙、ヒッピーへの理解者 母親への尊敬と随
順 中心の必要性を説く

少年の出家 119

出家と在家 人生経験なしの出家 赤子の苦しみと大人
の悲しみ

ヒマラヤの蕨 128

カトマンズの寺院 ボカラのストゥーパ建立

生命への讃歌 139

ネルー平和賞 箱根路を歩く 万朶の桜にみる生命力

III——ガンディー再考 147

ガンディーの孤独 149

ビヤレラールのガンディー論 プラフマチャリヤ「事
件」

ガンディーによる転向 161

J・P・ナーラーヤンの場合 若きガンディー主義者の
変身

非暴力の孤独 170

母のかなしみ 思想の有効性

非暴力の有効性 179

ハナ・アーレント女史の仮定論 不殺生の思想

三冊の本 188

インド系イギリス人によるインド批判 ガンディーよ、
永遠なれ！ 日本人特派員が見たもう一つのインド

IV——インドを考える 207

カーストの国 209

インドへのまなざし ミュルダールにおけるカースト概

念 デュモンの社会学的方法論 ガンディーとカースト
制度 プラフマチャリヤの誓い ガンディー再認識の必
然性

危機に立つガンディー主義

230

ガンディー主義のわかりにくさ 一神教的な観念とアジ
ア 一種独特の「禁欲」の精神 ガンディーにおける人
生の四住期 政治と宗教——両刀遣いの魔術師 ガンデ
イーを打ち負かした人間たち ガンディー主義運動の沈
滞

アジア宗教の可能性 251

日本の宗教とアジアの宗教 藤井日達の宗教行脚 イン
ドに還る仏教 仏教寺院が建ち並ぶブダガヤ アジア宗
教の今後

初出書誌

装幀 Ⅱ 島津義晴十渡辺 茂
写真 Ⅱ 木村吉夫十倉橋 正